

聖隷三方原病院

老人看護専門看護師の佐藤晶子が共著

『身体拘束最小化 グッド・プラクティス』を出版

— 患者の尊厳を安全を両立する医療の実践へ —

聖隷三方原病院 専門認定看護室に所属する老人看護専門看護師の佐藤晶子が、書籍『身体拘束最小化グッド・プラクティス』（照林社）の企画・編集・執筆に携わり、2026年6月23日に出版しました。

本書は、人権擁護の観点から医療現場において重要な課題となっている「身体拘束最小化」をテーマに、聖隷三方原病院を始め全国の医療機関で実践されている取り組みや具体的な事例を紹介しながら、効果的な実践方法をエビデンスに基づいて解説した一冊です。

身体拘束は、以前は転倒防止などを目的に行われることがありましたが、近年では、患者さんの尊厳と人権を守りながら療養できる医療を実現するという考え方が広がってきました。2024年度から身体拘束最小化への取り組みが全病院で求められ、2026年度診療報酬改定ではその成果も重視される中、医療従事者にとって実践的な指針となる内容がまとめられています。

【書籍概要】

書名：身体拘束最小化グッド・プラクティス

編集：百瀬由美子、佐藤晶子

出版社：照林社

発売日：2026年6月23日

ISBN：978-4-7965-2694-4



【佐藤晶子について】

当院 専門認定看護室に所属する老人看護専門看護師。高齢患者の尊厳を守る看護の実践と身体拘束最小化活動に長年取り組み、身体拘束最小化に関する実践や教育・研究活動を継続しています。また、日本看護協会機関誌「看護」（2024年12月）や「看護管理」（2025年11月）などにおいても、身体的拘束最小化に向けた組織的な取り組みについて報告しています。

【取材に関するお願い】

今回の内容について貴社で取り上げていただけると幸いに存じます。

取材を希望される場合は、下記問い合わせ担当者までご一報いただければ幸いです。